

2020年3月29日(日)／説教者：内間清晴

説教：「キリストの復活と私」

聖書：ローマの信徒への手紙6：1～11

キリストの救いというものは罪の贖いです。しかし、それが最終の姿ではありません。もし、罪の赦しというだけでしたら、キリストは十字架にかかり、復活というところまでは必要なかったと思います。キリストは人として肉体を持って生まれ(受肉した神)、30 余年の間、私たちと過ごされ、そして最後に十字架にかかって死なれたということ、そういうことを通じて神が望んでいる救いというのは、ただ罪の赦しだけではなく、何かもっと大きなことがあります。

それは、人間がいかに生きれば良いかということ、人間の生きる意味はなんであるかということあると思います。ローマ信徒への手紙6章6節から8節には以下のようにあります。

「6 わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。7 死んだ者は、罪から解放されています。8 わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。」

キリスト共に生きるのなら、これまでの物の見方や考え方、自分の利己的な考え方が変えられていく。生きていく上での目標が変わっていきます。キリストが人を見たように私たちが人を評価する。キリストが人を大切にしたように人を大切にしていく。キリストにあって生きるなら(真理を歩む)、ある場合は自分の命までも失う。評判を失う。人のために村八分、集団から排除される場合もあるかもしれません。これらのことは私たちにすぐにできることではありません。それは、理想を教えていることで、それに向かって生きることが大切です。しかし、人は自分の理想からかけ離れた状況に、悲しみ、弱さを思うはずで、そのような私たちにもキリストは以下のように励ましてくださっています。

マタイによる福音5章

「4 悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。6 義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。9 平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。10 義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」

私たちは聖書を通して、キリスト(真理)に出会い、今も生きておられる神の御手の中で、キリストから与えられた真理を目標に歩いていきましょう。(内間)